

科目名	地域・在宅看護Ⅳ		
担当教員	畠山 恵理		
配当年度	3年 前期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	訪問看護における看護過程の基本・特徴を学び、事例展開を通して援助方法を理解する。		
到達目標	1. 在宅における看護過程の特徴を理解する。 2. 看護過程のプロセスを演習を通して理解する。		
授業概要	事例を用いて看護過程を展開します。		
授業計画	内容		方法
	1回目	1. 在宅における看護過程の特徴	講義
	2回目	1. 事例紹介 2. 実習記録を用いた看護過程の展開と評価	講義・演習
	3～4回目	看護過程の展開	個人ワーク
	5回目	看護の方向性について演習	GW
	6～8回目	看護過程の展開	個人ワーク
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 (医学書院) 地域在宅看護の実践 地域・在宅看護論2 (医学書院)		
参考書	強みと弱みから見た在宅看護過程＋総合的機能関連図 (医学書院) 療養者が望む暮らしを支える 地域・在宅看護過程(医歯薬出版)		
評価基準方法	講義開始時にお伝えします。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	地域・在宅看護Ⅴ		
担当教員	山口 哉(2時間) 山崎 健吾(2時間) 佐藤 剛(4時間) 畠山 恵理(7時間)		
配当年度	3年 前期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	地域で生活している対象に必要な多職種連携・協働について考え、看護の役割を理解する。		
到達目標	1. 他の専門職の理解と、看護師に求められる連携の支援を理解することができる。 2. 多職種連携の中での看護師の役割を理解する。		
授業概要	多職種カンファレンスのグループワークと演習を実施します。		
授業計画	内容		方法
	≪畠山講師≫ 1回目 療養を支える看護師の姿勢 意思決定支援 2回目 療養を支える看護師の姿勢 ≪山口講師≫ 3回目 療養を支える職種との連携(薬剤師)① ≪山崎講師≫ 4回目 療養を支える職種との連携(作業療法士)② ≪佐藤講師≫ 5回目 療養を支える職種との連携(介護支援専門員)③ ≪畠山講師≫ 6・7回目 事例検討 ≪佐藤講師・畠山講師≫ 8回目 発表		講義・GW 講義 講義 講義 講義 GW GW
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 (医学書院) 地域在宅看護の実践 地域・在宅看護論2 (医学書院)		
参考書	講義時に提示します。		
評価基準方法	出席状況及び演習後のレポートで総合的に評価します。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	小児看護Ⅲ		
担当教員	熊木 美香		
配当年度	3年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	健康障害を持つ小児とその家族の特徴を理解し、発達段階や健康障害の状態に応じた看護に必要な基礎的知識・技術を学ぶ。		
到達目標	1. 小児に特有な疾患を持つ子どもと家族の看護を理解できる。 2. 小児の事例を用いて看護過程が展開できる。 3. 小児看護を実践するために必要な看護技術が理解できる。		
授業概要	この科目では、疾患を持つ小児の健康問題の経過や症状に対する看護について学びます。また、健康障害をもつ小児の看護過程について学ぶ内容とします。		
授業計画	内容		方法
	1回	小児の看護過程	講義
	2～4回	慢性期にある小児と家族の看護 事例を使用した看護過程の展開	講義 個人ワーク
	5～7回	急性期にある小児と家族の看護	講義
	8回	先天異常・染色体異常を持つ子どもの看護 低出生体重児の看護	講義
	9・10回	周手術期にある小児と家族の看護 手術を受ける小児の特徴、術前・術中・術後の看護	講義・演習
	11・12回	終末期にある小児と家族の看護 子どもの死の捉え方、小児がんの特徴 終末期にある患児のDVD視聴 視聴後レポート提出	講義 グループワーク
	13回	心身障害のある子どもと家族への看護	講義
	14・15回	小児看護技術演習 事例患児への看護援助	演習
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学② (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論/小児臨床看護総論 小児看護学① (医学書院) 写真でわかる 小児看護技術アドバンス (インターメディカ)		
参考書	講義の中で随時紹介します。		
評価基準方法	授業への参加状況及びレポート等の提出物(20%)、筆記試験(80%)を合算し、総合的に評価します。		
備考・学生へのメッセージ	小児看護Ⅰ・Ⅱの復習をして臨んでください。		

科目名	母性看護Ⅲ		
担当教員	藤本 沙織		
配当年度	3年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	母性看護を実践するために必要な知識・技術を学ぶ。また、生殖をめぐる生命倫理問題について考え、自己の生命観を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生殖をめぐる生命倫理的諸問題について、今までの知識や実習体験をふまえ自己の考えを述べるができる。 2. 母性看護における看護過程の特徴を理解し、展開することができる。 3. 母性看護に特徴的な看護技術について理解し、安全に実施できる。 		
授業概要	母性における生命倫理問題の学習を通して、自己の生命観について考察し、レポートにまとめます。看護過程は、模擬事例(褥婦・新生児)を通してアセスメントから具体策立案までの過程を深く学びます。技術演習では、母性看護に特徴的な技術を中心に演習を行い、沐浴は技術試験として評価します。		
授業計画	内容		方法
	1～3 母性看護における生命倫理問題 1)母性看護における生命倫理的諸問題とは 2)生命倫理諸問題について(出生前診断・着床前診断・不妊治療など) 3)レポート作成		講義・演習
	4～7 紙上事例による看護過程の展開 褥婦・新生児の事例の看護過程		演習
	8～10 母乳育児について 母乳育児の看護について		講義・演習
	11～13 母性看護技術演習 沐浴・新生児のバイタルサイン測定・オムツ交換・抱っこ・排気・更衣 乳房の観察方法		演習
	14～15 沐浴技術試験		演習
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学(1) (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学(2) (医学書院)		
参考書	根拠と事故防止からみた母性看護技術 (医学書院) ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 (医歯薬出版株式会社)		
評価基準方法	講義終了後の筆記試験(70%)・演習参加態度・レポート(30点)で評価する。		
備考・学生へのメッセージ	本講義で習得する知識は、後続の母性看護学実習の基盤となります。講義内容を理解し、実習にスムーズに移行できるよう努めてください。また、看護過程の展開においては、母性看護学Ⅰ・Ⅱの知識が不可欠なので、講義期間中に限らず、継続的に復習し、知識の定着を図ってください。		

科目名	看護の統合 I 看護管理		
担当教員	小林 紀子 ・ 岡本 幹子		
配当年度	3年 前期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	看護管理の意義や基礎的概念を学ぶ。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・看護実践の場におけるマネジメントの基礎的な知識・技術について理解する。 ・医療に関連する法制度について理解する。 ・安全管理,チーム医療,施設環境に関するマネジメントの知識を習得する。 		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「看護管理」の教本を基本とし,他の資料も使いながら授業を進めていきます。 ・看護実践を管理するための事例についてグループワークを行い,臨床における看護管理の実践経過をシミュレーションすることで理解を深めていきます。 		
授業計画	内容		方法
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とマネジメント 2. 看護ケアとマネジメント 3. 看護職のキャリアマネジメント 4. 看護サービスのマネジメント 5. マネジメントに必要な知識と技術 6. 看護と諸制度 		講義
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 (医学書院)		
参考書			
評価基準方法	筆記試験により評価		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	看護の統合Ⅱ 統合技術		
担当教員	今泉 萌泉(10時間) 熊木 美香(5時間)		
配当年度	3年 後期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	これまでの学びを統合し、あらゆる場面において看護を展開できる基礎的知識・技術・態度を身に付ける。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数患者のアセスメントをふまえ優先順位を考慮した行動計画を立案し、グループで実践できる。 2. 看護実践場面中に起こった緊急・突発事態に対し、適切な判断(連絡・報告・相談・調整・確認)および必要な援助ができる。 3. 「看護者の倫理綱領」を理解し、責任ある行動をとることができる。 4. 看護の統合と実践実習に向けた自己の課題を理解して目標を見いだせる。 		
授業概要	チーム単位で演習を進めていきます。演習発表では、複数の模擬患者に対し、優先順位を判断しながら必要な看護を実践します。3年間の集大成として適切な状況判断、安全安楽を考慮した看護技術の提供ができるよう学習をすすめます。		
授業計画・内容	内容		方法
	第1回	コースオリエンテーション	講義・演習
	第2回	チームカンファレンス 複数受け持ち患者(模擬)への行動計画の検討	演習
	第3・4回	看護技術演習	
	第5～8回	複数受け持ち患者(模擬)への看護介入 チームカンファレンス・実施に対する評価	演習
使用テキスト	今まで使用したすべての教科書・参考書を使います。他資料等がある場合は、その都度提示します。		
参考書			
評価基準方法	個人レポート等の課題への取り組み(60%)と模擬患者の看護介入に関する活動状況(40%)を合算し、総合的に評価します。		
備考・学生へのメッセージ	<p>演習では、根拠に基づいた援助が実践できるよう、今まで習った知識を確認しながら学習をすすめて下さい。また看護技術は、原理原則に則り練習を繰り返して下さい。</p> <p>本講義を通して自己の課題とその対策を明らかにすると共に、後にある看護の統合と実践実習に臨む準備もして下さい。</p>		

